

いろいろなふね ～「ここがすごいぞ！のりものカード☆」を作って紹介しよう～

本単元で育成する資質・能力

思考力, 判断力, 表現力

1 研修テーマ 自己の体験を想起させる工夫とそれを結び付ける手立てについて

2 日時 令和5年10月25日(水) 第5校時

3 学年 第1学年3組 男子14名 女子15名 計29名

4 単元名 ここがすごいぞ！のりものカード☆をつくろう (東京書籍 あたらしいこくご 一下)

5 単元観

(1) 学習指導要領に示された本単元にかかわる目標と内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること。

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

C 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。
 - オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
 - ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

(2) 本単元について

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「C 読むこと」の指導事項(1)オ「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。この力を育成するには、文章の内容を、自分の既存の知識や体験と結び付けて解釈し、それに対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

本単元で扱う「いろいろなふね」は、特徴的な機能をもった4種類の船を例として取り上げ、「やく目」、「つくり」、「できること」について説明した文章である。繰り返し読んでいくことで、説明のための基本的な文型を学ぶことができ、調べた乗り物についてまとめる学習へ発展させていくことができる。また、乗り物は児童にとって身近な題材であるので、自分の知っている様々な乗り物と比較することで、文章の内容と自己の体験とを結び付けて感想をもつことができると考える。

【単元構想シート】

①本質的な問い(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

文章を読んで考えをもつことは、どのようなよさがあるのだろうか。

②単元を貫く問い(単元を通して考え深めていく「問い」)

文章を読んで感想をもつにはどうしたらいいのだろうか。

③個別の問い(単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等)

- ・この教材文は何について説明しているのだろうか？
- ・教材文に出てきた船は、どんな船だろう？(客船・フェリーボート・漁船・消防艇)
- ・「役目(仕事)」・・・何をするための船だろう？
- ・「つくり」・・・何があるのだろうか？ 何を運んでいるのだろうか？
- ・「できること」・・・「つくり」があると、どのようなことができるのだろうか？
- ・自分が調べてみたい乗り物は何だろう？ ・大切な言葉はどのように探すのだろうか？
- ・他の乗り物のことを調べて、その乗り物のすごいところはどこだろう？(比較→共通点、相違点)
- ・何と比べたらすごいところがわかりやすいだろう？
- ・どこがすごいのかを説明するためにどんな乗り物と比べたらいいのだろうか？
- ・自分が知っていることや体験したことで、似ていることはないだろうか？
- ・どのような点に気を付けて、説明文を読んだらいいだろう？
- ・乗り物の「役目」や「できること」がそれぞれ違うのはどうしてだろう？

(3) 児童観

質問項目	肯定的評価
国語科の授業は好きですか？	85.7%
「どうやってみをまもるのかな」の授業は面白かったですか？	71.4%
自分が調べたことを友達と紹介し合う活動は楽しかったですか？	78.5%
教科書の文章の中から大切な言葉を見付けることはできましたか？	28.5%

本学級の児童は、入学時から“学ぶこと”に対する意欲が高く、アンケートの結果からも、国語科の学習に関して約8割以上の児童が肯定的に捉えている。

1年生最初の説明的な文章である「どうやってみをまもるのかな」(東京書籍1年上)の学習においては、文の中における主語と述語の関係に気付き、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える力を身に付けてきた。

しかし、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことに難しさを感じている児童は7割以上見受けられ、その多くは大事なキーワードを見付けることはできているが自分の選んだ言葉に自信をもてないのが現状である。

(4) 指導観

本単元の指導に当たっては、説明的な文章の読み方についての理解を深めながら、基本的に使われる説明文の型を押さえ、文章の中から重要な語や文を考えて選び出すとともに、文章の内容と自分の体験を結び付けた感想がもてるようにする。

必然性のある課題設定や単元構成の工夫として、単元冒頭では教師側が作成したのりものクイズを行うことで児童の既存の知識や経験を引き出す。さらに、教材文を読み進めていくことや乗り物についての絵本や図鑑の並行読書を進めることで、まだまだ自分の知らない乗り物がたくさんあることに気

付く。その中から、どんな乗り物を選び、何について調べたいのか、相手意識をもった上で、主体的に自己選択・自己決定ができる活動として、自分だけのオリジナルカードづくりを設定する。

学び合いの場の工夫として、紹介カードの発表の際、出来るだけ違う乗り物を調べた児童同士で交流し合えるように配慮することで、様々な乗り物と出会う機会にする。

※ユニバーサルデザインの視点から、想定されるつまずきとそれに対する手立て

学習活動	想定されるつまずき	考えられる手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●見通しのなさへの不安 ●状況理解の不十分さ 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の流れを提示することで、見通しをもって学習に参加できるようにする。(視覚化・時間の構造化) ○めあてや既習事項の提示・確認をすることで活動目標をイメージさせる。(視覚化・焦点化)
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●イメージすることの苦手さ ●体験の偏り ●曖昧なものへの弱さ ●定着の不安定さ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウェビングマップを活用することで、自分の既有的知識や体験の想起がしやすくなる。(視覚化・スモールステップ化) ○並行読書を行い、学習課題への意識付けを行う。 ○グループによる話し合い活動等を設定し、言語化させることで、理解を深めさせる。(学習形態の工夫・共有化) ○ワークシートの観点を「同じところ」「違うところ」「分かったこと・思ったこと」に絞ることで、児童の思考を方向付ける。(焦点化) ○既習学習の復習を毎時授業に取り入れることで、再理解のチャンスや習得の深まりを確保する。(スパイラル化)
終末	<ul style="list-style-type: none"> ●学習に対する意欲の持続 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価・他者評価・相互評価を行うことで、できたことや課題を認識させる。(肯定的な評価)

6 単元の目標と評価規準

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
単元目標	共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉え, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。また, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつことができる。	言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① 事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。 (2) ア ② 事柄同士の共通点や相違点を見付けている。 (2) ア 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C (1) ウ) ② 「読むこと」において, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。 (C (1) オ) 	学習課題に進んで取り組み, 文章の中の重要な語や文を選び出して, 学習の見通しを持ちながら, 分かったことや思ったことを説明しようとしている。

学校図書館などを利用して、乗り物について説明された図書を読み、分かったことや思ったことを「のりものカード」にまとめる活動を通じた指導 【言語活動例 C (2) ウ】

<評価の具体及び手立て>

	<p>評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】</p>	<p>「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導と手立て</p>
<p>思考・判断・表現</p> <p>「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p> <p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	<p><紹介カード></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">ゴミ収集車の写真または絵</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">ごみしゅうしゅうしゃ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①やく目(しごと) いえやおみせからでたごみをはこぶための車です。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②つくり スライドばんとあつしゅくばんがついています。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③できること スライドばんでとらえたごみを、あつしゅくばんでおしつぶして、たかさんのごみをはこぶことができます。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ここがすごいぞ！ ぼくが、おてつだいでいへのゴミをだすときは、ごみぶくろは一つしかもてないけど、ごみしゅうしゅうしゃはたかさん(1000こ)もはこべるからすごいなおもいませした。おかあさんにもおしえてあげたいです。 ぼくは、あつしゅくばんでつぶせないごみはあるのかな？とおもったのでまたしらべてみたいです。</p> </div>	<p>・どの言葉に注目したらよいか分からない児童や、文章中の言葉がどの観点に当てはまるのか分からない児童には、既習の掲示に注目させ、「～のため」は「役目(仕事)」の意味があることに気付かせる。</p> <p>・紹介したい乗り物について説明されているページを児童と一緒に読み、「役目(仕事)」「つくり」「できること」に該当する部分を児童自身に見付けさせる。 →大事な言葉や文を見付けられるように反復練習を行う。</p> <p>・グループ活動を設けることで、既知の知識や体験の想起が難しい児童でも、会話や相談の中で思い出すきっかけを作り出す。また、既知の知識や体験が乏しい児童にもウェビングマップを活用する上で友だちとの交流は有効な手立てになる。</p>

☆ここがすごいぞ！
ぼくはトラックとごみしゅうしゅうしゃをくらべました。トラックもたかさんのものをはこびます。ひっこしのときにみたトラックのうしろはともにおおきかったです。でも、トラックにあつしゅくばんはありません。だから、ごみしゅうしゅうしゃはトラックよりもたかさんのごみをあつめることができます。まちをいつもきれいにしてくれているのでありがたいです。

☆ここがすごいぞ！
ぼくはトラックとごみしゅうしゅうしゃをくらべました。トラックもたかさんのものをはこびます。ひっこしのときにみたトラックのうしろはともにおおきかったです。でも、トラックにあつしゅくばんはありません。だから、ごみしゅうしゅうしゃはトラックよりもたかさんのごみをはこびます。一回でどれくらいのリょうのごみをはこべるのかなとおもいました。

7 指導と評価の計画(全12時間)

※並行読書で、他の乗り物について書かれた図鑑や本を読む。

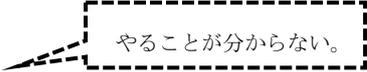
次 (時)	主な学習活動	評価規準 (評価方法)			
		知	思	主	
第一 次 (1)	<p>① 学習のねらいと進め方を理解し、見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の船の写真をクイズ形式で提示し、教材文への関心を高める。 ・関心をもって範読を聞き、教材文に出てきた順番に写真を並べる。 ・初発の感想から学習のめあてをつくり、学習計画を立てる。 				
第二 次 (4)	<p>② 「役目 (仕事)」「つくり」「できること」の視点に沿って教材文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題提示とまとめの役割について考え、文章構成を捉える。 ・【消防艇】についてワークシートにまとめる。 				
	<p>③ 「役目 (仕事)」「つくり」「できること」の視点に沿って教材文を読み、内容の大体を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【客船】についてワークシートにまとめる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。 【知】ワークシート・発表
	<p>④ 「役目 (仕事)」「つくり」「できること」の視点に沿って教材文を読み、内容の大体を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【漁船】についてワークシートにまとめる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・事柄同士の共通点や相違点を見付けている。 【知】ワークシート・発表
	<p>⑤ 「役目 (仕事)」「つくり」「できること」の視点に沿って教材文を読み、内容の大体を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【フェリーボート】についてワークシートにまとめる。(本時5 / 12) 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【思】ワークシート・観察

<p>第三次 (5)</p>	<p>⑥～⑩ 学んだ視点を生かして、「のりものカード」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「役目（仕事）」「つくり」「できること」の視点に沿って図書を読む。 ・「～のための」など、文章中の重要な言葉や文を考えて選び出す。 ・事柄同士の共通点や相違点を見付ける。 (例：消防車と消防艇，パトカーと救急車，人や自動車も比較対象となる。) ・文章の内容と自分の体験（既有的知識）とを結び付けて，感想をもつ。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に進んで取り組み，文章の中の重要な語や文を選び出して，学習の見通しをもちながら，分かったことや思ったことを説明しようとしている。 <p>【主】ワークシート・観察</p>
<p>第四次 (2)</p>	<p>⑪ 「のりものカード」を紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ乗り物について，調べて分かったこと（「役目（仕事）」「つくり」「できること」と自分の感想を交えた「☆ここがすごいぞ！」を紹介し合う。 (ペア→グループ→自由に) <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>伝え合う</p> </div> <p>⑫ 調べたり紹介し合ったりして分かったことや思ったことを伝え合い，学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ぼくは○○くんのはっぴょうで、トラックもたくさんものをはこぶための車だということをしました。トラックは、ベットやにもつなどつぶしてはいけないものをはこぶので、あつしゅくばんがないのかなとおもいました。のりものは、それぞれのしごとにあっているんだとおもいました。</p> </div>		○	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。 <p>【思】ワークシート・観察</p>

8 本時の目標

「役目（仕事）」「つくり」「できること」の視点に沿って教材文を読み、フェリーボートについての重要な語句や文を考えて選び出すことができる。

9 本時の展開

学習活動（時間）	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 前時の振り返りをする。		
2. 本時のめあてを確認する。	◆めあてや既習事項の提示・確認をする。(視覚化・焦点化)	
		
3. ウェビングマップを活用し、フェリーボートについてのイメージを書き出す。	◆同じところや違うところに注目して既知の知識や経験を文字に起こさせる。(焦点化)	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">フェリーボートの「☆ここがすごい！」を見つけよう。</div>	
4. 教材文を読み、ワークシートにフェリーボートの説明をまとめる。	◇単元に入る前からウェビングマップを活用しておく。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・船の仲間。 ・海の上にある。 ・大きい。 ・宮島に行くときに乗る。 ・乗ったことがある。 ・車が乗っているのを見たことがある。 ・人を運ぶ。 ・客室がある。 → ・客船と似ている。 	
5. 分かったことや気付いたことを発表する。	◆何を書いたらいいか分からない。	
6. フェリーボートの「☆ここがすごい！」ポイントを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「役目(仕事)」・・・たくさんの人と自動車を運ぶ。 ・「つくり」・・・客室や車を停めておくところがある。 ・「できること」・・・車を船に入れてから、客室で休む。 	<p>・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p>
7. フェリーボートの「☆ここがすごい！」ポイントを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・休むための客室があるところが客船と同じ。 ・消防艇と違って、火は消せない。 ・客船と違って、食事をするところがない。 ・漁船と違って、魚を捕まえることができない。 ・人を運ぶところは自動車も同じ。 	<p>【思】ワークシート・観察</p>
8. 本時を振り返る。	◇自分の体験が少なく、困り感のある児童には自動車や自分(人間)と比較することを提案する。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車は家族5人しか乗れないけど、フェリーボートはたくさんの人と車を両方たくさん運べるのですごいです。 ・ぼくはフェリーボートに乗ったことがあります。客船と違って車も運べるので、降りた後に車に乗ってどこかに行くことができ便利です。 	

10 板書計画（電子黒板にはフェリーボートの写真を提示）

いろいろなふね

① フェリーボートの「☆ここがすごい！」をみつけよう。

フェリーボート

みつける

くらべる

ちがうところ

おなじところ

① やく目

しごと

くのため

たくさんの人とじどう車をいっしょにはこぶ。

② つくり

きやくしつや車をとめておくところがある。

③ できること

車をふねに入れてから、休むことができる。

☆ここがすごい！

おもったこと

わかったこと

☆じぶんのたいけん

<ワークシート>

① やく目

しごと

くのため

たくさんの人とじどう車をいっしょにはこぶ。

② つくり

きやくしつや車をとめておくところがある。

③ できること

車をふねに入れてから、休むことができる。

☆ここがすごい！

```

graph TD
    FB((フェリーボート)) --- T[トラックも]
    FB --- MI[のったことがある]
    FB --- MJ[みやじま]
    FB --- U[うみの上]
    FB --- HR[人をはこぶ]
    FB --- KS[きやくせん]
    FB --- KJ[きやくしつがある]
    FB --- CV[車をはこぶ]
    
```

11 指導の実際

(1) 指導上の工夫

○「考え聞かせ」の取組

国語科教育推進研修第一期において、単に絵本等に載っている文字をそのまま読むのではなく、絵や写真、言葉やお話の筋について、適宜質問を加えることにより、児童に考える視点を身に付けさせることをねらいとした「考え聞かせ」について学び、研修後、自校に持ち帰り取り組んできた。写真の下の小さなキャプションを見逃さないこと（本の読み方）や、既存の知識や経験の想起を促す質問を行うことで、経験の乏しい児童にも他の児童の経験を共有することができた。また、読み聞かせだけではなく、単元ごとの第一時で扉絵を活用し、物語なのか説明文なのかジャンルを意識したり、何について書かれている文章なのか問いの持ち方について学習したりしてきた。この取組を通して、図鑑を読み取る方法や、どのようなことに着目して図鑑を読んだらよいかなど、学習に必要な視点を児童に意識付けさせることができた。

○並行読書の工夫

児童の興味関心を高めたり、語彙を増やしたりするために、ポプラ社のMottoSokka！（電子図書読み放題サービス“Yomokka!”）を活用し、読みたい本が重複してしまっても、問題なくいつでも本を読めるようにした。その中でも、乗り物に関わる図書を整備し、“Yomokka!”の“本棚”という場所に入れておくことで小学1年生のレベルに合った本を児童自身が選ぶことができた。

○文章中の重要な語や文を見付けるためのキーワードに着目させる指導の工夫

「やく目（しごと）」「つくり」「できること」の3つの観点でまとめることができるようになるために、文章の中の重要な語や文を見付ける上で着目すべき言葉を短冊にして毎時間黒板に掲示したり、ワークシートに書き込ませたりした。「～ための」は、やく目について書かれていること、「あります。」「つんでいます。」はつくりについて書かれていることを、児童が教科書から探し出してワークシートにまとめた。

○写真と文章を対応させて説明する力

文章の中の言葉が、船のつくりのどこのことであるのか捉えさせるために、写真を指し示しながら説明をさせた。教師が、「何でそのつくりが大事なの？他にもたくさんつくりがあるよ？」「そのつくりがあると何ができるの？」と切り返すと、文章に戻り、写真と文章を対応させながら説明をすることができた。

○既存の知識や経験を想起させる手立て

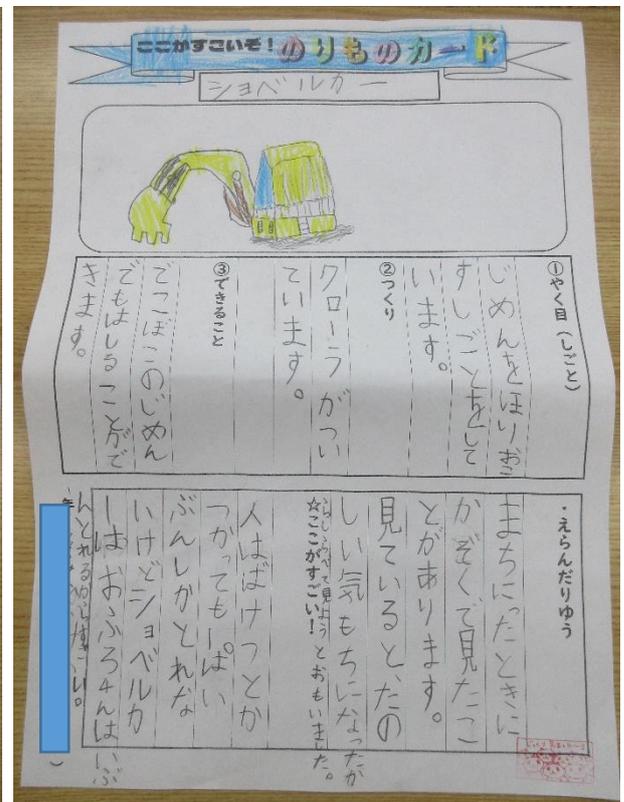
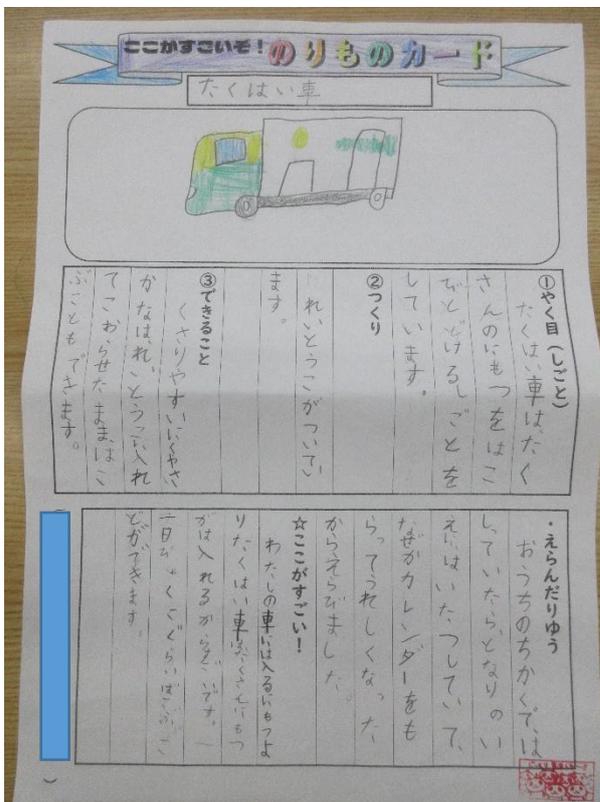
まず、毎時間の導入でワークシートに載せたウェビングマップを活用し、その時間に扱う乗り物についてのイメージを電子黒板に教科書に載っている写真を提示した上で書き出させた。そして、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ点においては、事柄同士の共通点や相違点を見付け、乗り物の「すごいところ」を自分の経験と比較して考えさせた。例えば、漁船では、「自分が川で魚を捕るときは虫網で1匹とか2匹しか捕れないけど、漁船は大きな網でたくさんの魚と捕れてすごい。」と感想

をもった児童がいた。また、消防艇では、「消防艇は海の火事は消せるけど、陸の火事は消せなくて、消防車は陸の火事は消せるけど、海の火事は消せないからどっちも大事。」ということに気付いた児童がいた。

さらに、乗り物カードを作成する際には、その乗り物を選んだ理由を書く欄を設けた。それにより、自分がどうしてその乗り物を選んだのかを考えることができ、選んだ理由にも自分の知識や経験がつながっていることに気付くことができていた。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

- 文章中の重要な語や文を見付けるためのキーワードに着目させることについて、「やく目(しごと)」「つくり」「できること」の三つの観点のキーワードを見付けられない児童には、これまでのワークシートを見返したり、掲示を一緒に確認したりして、同じ言葉で表現されているところがないかどうか気付かせた。また、乗り物カードをつくる際に、これらのキーワードを使用していない図鑑からの読み取りを試みている児童には、複数の図鑑を読み比べて同じ言葉や言い回しが使われていないかどうか確認させることで「やく目(しごと)」「つくり」「できること」に気付くことができた。
- 乗り物の「すごいところ」を自分の経験と比較して考えさせる点で、既知の知識や経験の乏しい児童やその想起が難しい児童には、比較対象を自分(人)や自家用車などの身近なもので考えさせたり、同じ幼稚園・保育園出身の児童同士で話し合う機会を設けたりし、幼少期の体験を想起できるようにしたりした。



また、自分が調べた乗り物について、自分の体験や考えとを結び付けて、感想をもつことができた児童は29名中8名であり、「十分満足できる」状況（A）と評価した。

また、自分で調べた乗り物について、自分の体験を結び付けて、感想をもつことができた児童は「おおむね満足できる」状況（B）と評価とした。

自分で調べた乗り物について、自分の体験を結び付けて、感想をもつことができなかった児童を「努力を要する」状況（C）とする予定だったが、本単元に該当者はいなかった。

13 成果と課題

(1) 成果

- ・学校図書館だけではなく、電子図書を活用していたので、児童が調べたいと思ったときにすぐ本を読むことができた。そして、多くの様々な乗り物に興味をもち、進んで調べていた。
- ・ワークシートにウェビングマップを載せることで、文章の内容と自分の体験とを構造的に結び付けやすくなっていた。また、同じ形のワークシートを毎時間使用して考えを形成していったことで、児童は既習の安心感のもとで「自分の体験と比べてどうか」という読みの方法を獲得することができた。また、感想をもたせる際に、乗り物の「すごいところ」に絞って自分の体験と比較して考えさせたことが、文章の内容と自分の体験とを結び付けやすくしたと考える。
- ・指導者側の切り返しの発問によって、児童が「何がすごいのか」「どうしてすごいのか」を具体的に説明することができるようになった。単元の終末では、指導者が問い返す前に自分自身で補足説明をする場面も見られた。

(2) 課題

- ・児童が選んだ乗り物のすごいところと自分の体験や知識を結び付けることはできたが、感想をもつことができた児童は少なかった。自分の体験や経験と結び付けて解釈をしたり、感想をもったりすることができるような指導を工夫する必要があるがあった。
- ・指導者が国語科推進研修において考えの形成についての理解を深め、終末にはどのようなことを書かせたいのかイメージを膨らませていたものの、実際には理想だけが高くなってしまい、児童の実態よりレベルの高いものを目指していたように感じた。それでも、指導者の熱に感化され、児童自身も頑張る姿が見られた。改めて、児童の実態を把握するとともにその状況に応じて教材研究をすることが大切であると感じた。

※付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
じどう車ずかんをつくろう1(きゅうきゅう車・パトロールカー・しょうぼう車)	監修:岡田博元(お茶の水女子大学付属小学校)	ポプラ社
じどう車ずかんをつくろう2(タクシー・すいりくりょうようバス・ろせんバス)	監修:岡田博元(お茶の水女子大学付属小学校)	ポプラ社

じどう車ずかんをつくろう3(クレーン車・ダンプカー・ショベルカー)	監修:岡田博元(お茶の水女子大学付属小学校)	ポプラ社
じどう車ずかんをつくろう4(ろめんせいそう車・高所さぎょう車・ごみしゅうしゅう車)	監修:岡田博元(お茶の水女子大学付属小学校)	ポプラ社
じどう車ずかんをつくろう5(キャリアカー・たくはい車・タンクローリー)	監修:岡田博元(お茶の水女子大学付属小学校)	ポプラ社
じどう車ずかんをつくろう6(いどうとしょかん・きしん車・クレープはんばい車)	監修:岡田博元(お茶の水女子大学付属小学校)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん① 町や人をまもるじどう車① しょうぼう車	監修・写真:小賀野実	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん② 町や人をまもるじどう車② パトロールカー・きゅうきゅう車	監修・写真:小賀野実	ポプラ社
ポプラディア大図鑑 WANDA 自動車・船・飛行機		ポプラ社
のりものくらべ① はたらく車	監修:相馬仁/写真:元浦年康	偕成社
のりものくらべ② 暮らしをまもる車	監修:相馬仁/写真:元浦年康	偕成社
のりものくらべ③ 電車やてつ道	監修:相馬仁/写真:元浦年康	偕成社
のりものくらべ④ いろいろな船	監修:相馬仁/写真:元浦年康	偕成社
のりものくらべ⑤ ひこうきやうちゅう船	監修:相馬仁/写真:元浦年康	偕成社
はたらくじどう車 しごととつくり① ブルドーザー・ショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり② しょうぼう車・きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり③ パトカー・白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり④ バス・トラック	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車・ゆうびん車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑥ じょうよう車	小峰書店編集部	小峰書店
ふしぎ・びっくり! ?こども図鑑 新版のりもの	監修:交通科学博物館 企画・編集:松下清	学習研究社
ニューワイド 学研の図鑑 自動車・飛行機	編集:志村隆	学習研究社
くらべる しらべる ずかん はたらくじどう車	監修:元浦年康	あかね書房

※ポプラ社のMottoSokka! (電子図書読み放題サービス“Yomokka!”)を利用して、関連する本を各自読ませた。